

生産しやすく栄養価の高い稲発酵粗飼料用水稲品種「たちすずか」

穂が小さいため倒れにくく、消化の良い茎葉の割合が高い、飼料調製に適した稲発酵粗飼料用品種

研究開発の背景

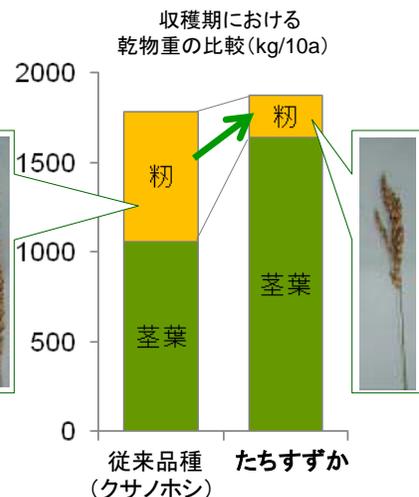
- ・従来の稲発酵粗飼料は、栄養分として消化されにくい籾を多く含んでいること、倒伏によって収穫が困難になる場合があること、また収穫物の発酵がうまくいかず飼料としての品質が低下するといった問題がある。
- ・そのため、飼料として無駄が少なく、収穫ロスが少なく、発酵に適した特性を持つ稲発酵粗飼料用水稲品種が求められている。

研究成果の内容

稲発酵粗飼料用品種「たちすずか」の大きな特長

茎葉の割合 ≫ 籾の割合

牛が消化しにくい籾の割合が低く、消化の良い茎葉の割合が高い



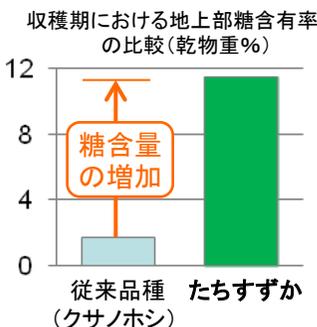
倒れにくい

穂が極めて小さいため、重心が低く倒れにくい



茎葉中の糖含量が高い

乳酸発酵が進みやすく、高品質な稲発酵粗飼料の生産が可能



導入メリット

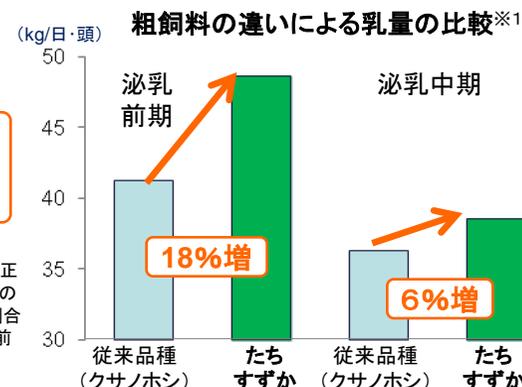
稲生産農家のメリット

収穫ロスの減少

長期間収穫でき、収穫作業の労働分散が可能

畜産農家のメリット

「たちすずか」の導入による乳量の増加



※1: 乳量はFCM(脂肪補正乳量)で示した。飼料中の稲発酵粗飼料の混合割合(乾物ベース)は、泌乳前期は25%、泌乳中期は30%で試験。

生産現場における導入事例(広島県)

稲発酵粗飼料 (給与年)	305日乳量 (kg/頭)	乳販売額 (円/頭)	飼料費※2 (円/頭)
(H23) 従来品種	9,160	842,720	313,272
(H24) たちすずか給与	10,056	925,152	309,725
差(H24-H23)	896	82,432	-3,547

※2: 飼料費の削減は、粗飼料を「たちすずか」主体に置換し自家配合したことによる。

乳量の増加等による粗収入増が期待

期待される効果

- ・飼料用稲の収穫ロスの低減と収穫作業の効率化により、水田の利活用の拡大に寄与。
- ・高品質な国産粗飼料の生産と安定供給が可能となり飼料自給率の向上に寄与。

導入をオススメする対象
関東以西の稲発酵粗飼料生産者 等